

令和5年度「かごしま地域活性化協働推進事業」実施結果

(事業名) 『種子島・屋久島に住みたい』と出会うおうちのおさがりプロジェクト

実施主体

(団体名) 一般社団法人LOCAL-HOOD
(担当課名) 熊毛支庁総務企画課



背景

- ・熊毛地域では移住者が増加傾向にあり、また移住相談も多く寄せられているが、居住可能な家が少なく、移住を諦める人が多い実情がある。
 - ・空き家バンクへの登録は居住可能であることが求められ、所有者のニーズ（現状のまま貸したい、売りたい）に対応できていない。
- └空き家バンクへの登録件数※令和5年4月現在：西之表市 0件、中種子町 1件、南種子町 1件、屋久島町 1件
- └空き家バンクでサポートできない内容、課題点（補助金申請も含む）※空き家バンク担当者からの聞き取り：
物件の売買、物件の解体、解体後の売買、所有者が複雑。2親等以内しか補助金申請できない。

地域課題

- ・地域活性化のためには、移住者確保に繋げるための空き家対策が重要であることから、地域全体で空き家の現状調査や適正な管理体制の構築に取り組む必要がある。
- ・空き家所有者に空き家の賃貸についての課題をヒアリングしたところ、主な課題として
 - ①修繕にお金がかかること
 - ②仏壇があったり、親戚が一定期間利用すること
 - ③所有者として借り手が誰でもよいわけではないことという3点が把握できた。

事業のねらい

そこで、空き家所有者と移住希望者等の情報交換の場を設けることで、空き家所有者の意識醸成を図り、空き家バンクの登録促進を図るとともに、移住者確保に繋げ、地域活性化を目指す。

事業概要

コミュニティとして解決できるマインド形成を目指し、以下4点を実施

- ①空き家予備持ち主、集落、移住希望者へのヒアリングと、ワークショップの実施
- ②マッチングアプリの作成・運用
- ③地域向け報告会実施
 - 1回目 仕組みの紹介と意見交換
 - 2回目 運用成果を共有
- ④移住者向けチラシ作成



成果

- 1 『住みたい』で繋がるマッチングアプリの運用とHP・広報用のチラシが完成した。
- 2 移住希望者の登録が3件、空き家所有者からの相談が3件あった。
- 3 本事業の取組前は空き家情報についての情報共有がなされていなかったが、本事業を通し、市役所や地域との連携が強化され、空き家の件数が把握できた。
- 4 本事業の仕組みが展開された西之表市の西之表市役所地域支援課にて、本事業を取り入れた活動が開始された。(DIYを行いたい人と空き家所有者をマッチング) それにより、市全体として空き家に対する取り組みが活性化された。
- 5 NPO 法人鹿児島インファーマーシオンが実施する鹿児島県ICTel大賞にて最優秀賞受賞した。

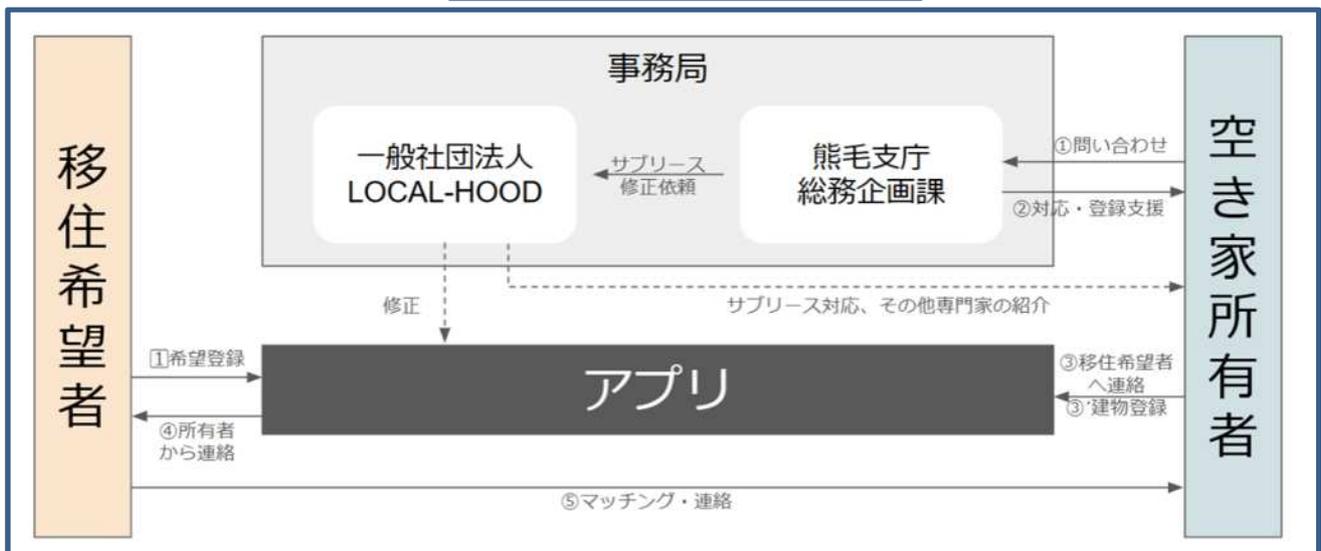


協働の状況

- 鹿児島県熊毛支庁総務企画課と一般社団法人LOCAL-HOODとの体制の再構築
- 上西校区へ引き続き事業推進状況の情報共有
- 各市町へ引き続き事業推進状況の情報共有
- 加藤潤氏（共生・協働マネジャー）からの助言

今後の取組

- HPとチラシを活用した取り組みの周知
- 問い合わせ窓口を鹿児島県熊毛支庁総務企画課内に設置
- 一般社団法人LOCAL-HOODとの共同体制により、アプリを継続的に運用（2024年9月に一度成果を確認予定）



協働事業の感想

団体からの声

実際に取り組みを行う際、鹿児島県熊毛支庁総務企画課との協働事業である、という点で、地域の方から非常に安心と信頼感を持っていただけたと感じました。また、とても朗らかな雰囲気で行うことができ、安心感も持っていただけました。そのため、今後も円満な関係性を築いていけると感じます。

担当課からの声

県が空き家情報を随時把握し、適正な管理を行うことは困難である。

また、空き家所有者には様々な状況や思いがあることから、空き家問題の解決には地域の方の御理解、御協力が必要不可欠と感じた。協働事業団体からは、移住希望者の立場に立ったアドバイスを頂いたり、地域との打ち合わせ等においてファシリテーターとして参加者の意見を吸い上げたりして、議論を活発なものに引き上げていただいた。

今後も連携を密にし、空き家問題に協力して取り組んでいきたい。